

緩歩

かんぽ

— 第4号 —

【題字】

洞慶院 丹羽鐵山 老師

曹洞宗

静岡県第一宗務所青年会



第9期会長
山田 哲哉

平成二十年十一月の臨時総会を経て、第九期目を迎えた静岡県第一宗務所青年会の会長という、身に余る大役を仰せつかりました。ここで改めて、紙面を以てご挨拶申し上げます。

組織の中にあつて、時代と共に変化を求められることは多々ある事とは思いますが、決して譲る事のできない大切な思いや理念というものもあると考えます。当青年会におけるそれを、二年の任期を全うする中で、守り継承していく事を任されている

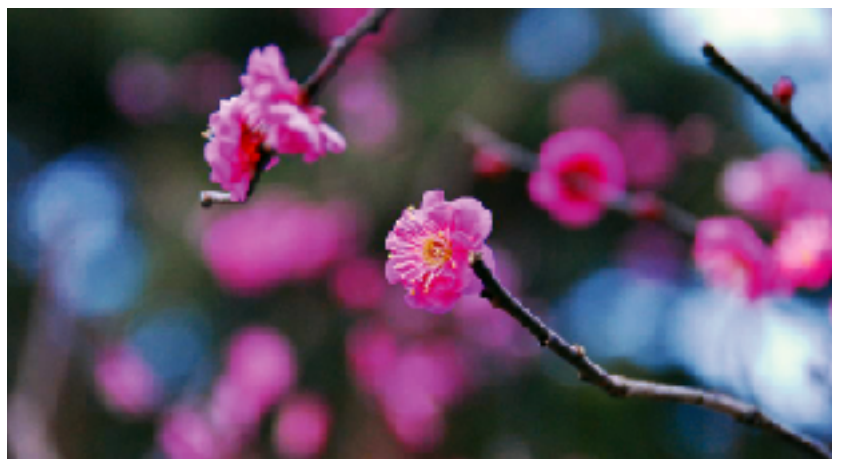
責任を痛感し、改めてOB諸老師方の積んでこられましたご苦労とご功績に頭が上がりません。しかしながら、戸惑う事・迷う事があるうとも、決して臆することなく邁進していく所存です。当会会員諸兄、第九期執行部諸兄のご協力を仰ぎ、任を果たしていく心構えでおります。



昨年度より、賛助会員の皆様からの温かいご支援を得まして、今期は、各委員会より、制約の少ない青年僧故の若く新しい視点からの研修を計画していけるよう、組織を見直す機会を得ました。これにより多くの会員が各委員会に集まり、活発な意見交換をして、それを研修会という形へつなげられるものと考えております。それと共に、それぞれの持つ知識や経験に更なる磨きをかける機会の増加にもなると考えます。

今日では、東部・中部・西部と、それぞれに違った速度や方向性で地域が日々変化・発展しています。同じ県内の宗務所とはいえ、それぞれを取り巻く環境は、宗教的な面だけではなく、地域社会のあり方や経済状況、人々の流れと、様々な分野において勉強する必要のある事ばかりと感じております。

そのような状況の中、会員一人ひとりが、宗門僧侶として当たり前前の知識や経験だけではなく、それぞれが地域社会の一つのハブ（中枢）として果たしていくべき、あるいは、果たしていく役割を模索していくためのツールとしても、当会が役立つものになればと考えております。



当会会員の活動は、これまでも、そしてこれからも、決して完璧を求めて行われるものではありません。始めから失敗するつもりで行うことはありませんが、失敗を恐れずに取り組んでいくこともまた事実です。

宗務所管内諸老師には、どうか青年会の活動に対し、これからもより一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、就任のご挨拶とさせていただきます。

二十年度 活動報告

花祭り

四月八日花祭りの日（釈尊降誕会）に平和を祈念して、花配りをJR静岡駅北口地下通路・JR焼津駅前・JR藤枝駅前・JR沼津駅前にて行いました。

花の種二千個・花六百本を配布いたしました。



定例総会

五月八日、静岡グランドホテル中島屋において、第十六回定例総会が行われました。



平成十九年度の事業報告、会計報告・監査報告、平成二十年度事業計画案、会計予算案などについて討議され、全て承認されました。

各委員会の活動報告、活動予定についても全て承認されました。

また、清水災害ボランティアネットワーク代表の大石学氏をお招きし、「東海沖地震 私たちに出来ること」を演題として、講演をして頂きました。

ボランティア研修 ひろげよう献血の輪

十月一日、ボランティア委員会主催で献血研修を行いました。まず、静岡市瑞光寺様において、

赤十字血液センター血液推進課の北村氏より、献血についての講習を受けました。

講習は「人間の生命を維持することに欠くことの出来ない血液は、まだ人工的につくることはできない。さらに、血液は生きている細胞なので、長い間保存することができない。ひとりひとりの献血が医療を支えている」という内容でした。

講習の後、静岡市青葉公園の献血バスにて、五十五名が献血に参加し、献血後、献血推進の呼びかけを行いました。



平和祈念托鉢

十一月十一日、静岡市街から地下街にかけて、世界の平和を祈念して托鉢を行いました。

参加者は三十八名。本格的な冬の到来を感じさせる寒さながらも天候

に恵まれ、改装された地下街では御詠歌が厳かに響き、足を止めて聴き入って下さる方もいました。

皆様からいただきました浄財14,887円は、社団法人シヤンティ国際ボランティア会（SVA）に寄付いたしました。

絡子作成研修

今年度は、九月九日に静岡市瑞光寺様、十月十日に焼津市林叟院様、十二月一日に富士市養雲寺様にて、三回の絡子作成研修がおこなわれました。

多くの会員が、絡子を完成させることができました。



北海道研修旅行

五月十四日から十六日の日程で、全国曹洞宗青年会定期総会・研修会の参加と会員の親睦を図るため、北海道研修旅行を行いました。研修旅行には高橋俊行会長を始め十三名が参加し、札幌市中央寺専門僧堂で行われた研修会・総会には第一曹青から十五名が参加しました。

・第1日目

羽田空港より新千歳空港に到着後、中央寺様へ直行し、高橋会長は午後三時より全曹青の評議員会に出席しました。他の会員は午後五時より全曹青中央研修会「蝦夷錦（えぞにしき）〜アイヌ文化の継承と発展」に参加しました。また、午後七時から札幌ロイヤルホテルで開かれた懇親会には数名が出席し、普段なかなか会うことができない僧堂安居時代の仲間や全国の青年僧と交流、親睦を図りました。

・第2日目

午前十時より中央寺様にて平成二十年全国曹洞宗青年会定期総会に参加しました。当会の監事・香村一孝師は全曹青でも監事の任に就いて



いるため、議事の途中で会計監査の報告をしました。全曹青のよく準備された議事進行の仕方は非常に参考になり、様々な面において今後我が第一曹青の総会にも活かされることでしょう。

総会後に三重県曹洞宗青年会和太鼓僧伽「鼓司（くす）」による「悟りの岸へ―雲の行くまま水の流れるままに―」の演奏がありました。和太鼓奏者・服部博之氏と九名の太鼓散華の偈・般若心経の演出に始まり、二年半練習してきたという和太鼓の演奏へと続きました。その演奏は一

挙手一投足が一糸乱れず、合計十張の太鼓から連打される音の迫力には、参加者一同が圧倒され、固唾を飲んで見守り、最後には大喝采を送りました。

午後六時より第一曹青から総会に参加した十五名全員が集まり懇親会を開きました。今回全曹青の総会に参加した感想や現在の第一曹青の問題点など白熱した議論も飛び交いました。

・第3日目

午前九時にホテルを出発し、小樽観光に向かいました。途中札幌の市場に立ち寄り、各々自坊に海産物のお土産を買いました。小樽ではガラス細工の工芸品の店が綺麗に立ち並び街を散策し、昼食をとりました。その後、新千歳空港に向かい、空路羽田空港に到着後、バスにて無事に帰静しました。（参加者まとめ）

千僧法要・禅文化学林

十二月十七日奈良東大寺にて、全日本仏教青年会創立三十周年記念事業として「世界平和祈願 奈良千僧法要」が行われました。全国の青年僧侶千三百人が集い大法要が行われま



した。当青年会からも二十四名（会員二十二名、OB二名）が参加しました。法要の流れは、奈良県新公会堂から東大寺までの行列、大仏殿での散華、パーリ語教典や般若心経の読経、鏡池のほとりて世界平和を祈念しての大護摩供（おおごまく）が行われました。

また、夕方からは全国曹洞宗青年会主催の「禅文化学林」が奈良県新公会堂にて開催されました。藤田一照老師により伝法などについて講演が行われました。



安居志願者研修

本年度、僧堂に安居を希望している若き宗侶たちが、応量器の使い方やお袈裟のつけ方などを学ぶ研修が行われました。

日程・参加者は左記の通りです。

第一回 一月九日
富士市 慈林寺 参加者 四名
第二回 二月二日
富士市 慈林寺 参加者 二名



歳末助け合い托鉢



十二月、県内各地で歳末助け合い托鉢が行われました。

島田市では十二月二日、島田駅周辺で行いました。浄財23,582円は、島田市社会福祉協議会を通して歳末助け合い募金に寄付いたしました。

焼津市でも同様に二日に焼津駅周辺で行いました。浄財13,851円は、焼津市社会福祉協議会を通して歳末助け合い募金に寄付いたしました。

静岡市では、四日に青葉シンボルロードにて托鉢を行いました。浄財

83,200円は「SBS愛の都市訪問」に寄付いたしました。

沼津市では、八日に沼津駅周辺にて托鉢を行いました。浄財50,826円は、小山町社会福祉協議会へ寄付いたしました。

メンタルケアの技法としての坐禅

二月二十日静岡市瑞光寺様において「メンタルケアの技法としての坐禅」と題し、NPO法人マインドフルネス総合研究所理事長・大田健次郎氏より講習をいただきました。

氏は、ここ十年來日本の自殺者が年間三万人を下らない現状（単純計算で一日に約九十人）を踏まえつつ、自殺の主な原因であるうつ等への対策や予防として、仏教や禅の智慧を取り入れた米国のマインドフルネス心理療法を紹介されました。しかし日本の保険制度は米国と異なるため、カウンセラーが職業として成り立ち難く、最新療法の研究もままならない状況だそうです（日本人によるマインドフルネス心理療法の解説書はほとんどなく、翻訳が数冊出版されているのみ）。

そこで、坐禅が目指す「高い境地」への迂回ルートとして、「心の病氣」「心の不健康状態」を対象としたマインドフルネスの技法による参禅会開催への期待が語られました。中には、うつ等の治療を期待して地元の参禅会に参加しても改善が見られず、不参加になってしまうケースも十分に考えられるとのことでした。

心理療法は半年から二年程で治すのを目標としており、またカウンセラーリングの技法も一年で誰でも修得できるようにプログラムされています。その簡単な例として、呼吸法や運動を挙げられ、脳の働きを活発にする脳トレも実習しました。



梅花観音霊場めぐり【東部その二】

富士インターより
参拝しやすいコースを掲載しました。

第二〇五番

富洞山

碧雲寺

御仏の
慈悲に生命の
潤井川
旅の衆生へ
半杓の水



富士市
厚原

第七十三番

興法山

成安寺

手を合わせ
成安願う
観世音
朝な夕なに
心浄めん



富士市
上横割

第七十四番

柳島山

養雲寺

柳島
梅花の香り
限りなく
深き誓いを
永遠につたえん



富士市
柳島

第六十九番

大富山

永明寺

乱水の
庭におわせし
み仏の
富士の真清水
ゆたかなるらん



富士市
原田

第七十二番

大富山

松岳寺

法の音
御恵み多き
観世音
拝む心は
後の世の為



富士市
入山瀬

第七十一番

亀鶴山

萬松院

湧く玉の
ほとりに薫る
梅の花
菩薩のお慈悲
永遠に馥郁



富士宮市
元城町

第七十五番

海嶋山

福泉寺

麗峰の
姿を仰ぐ
田子の浦
浄心慈心の
鐘の響きよ



富士市
柳島

第六十八番

天念山

慶昌院

有難や
恵みも深き
須津の里
慶昌院の
梅花観音



富士市
中里

第七十番

開富山

保泉寺

梅香る
み恵み深き
観世音
願い祈らる
守りなるかな



富士市
吉原

第一〇八番

富士山

保寿寺

もろびとの
ことほぎねこう
祈り充ち
のぞむ富嶽に
光あまねし



富士市
伝法

新 部 行 紹 介

監事



徳月正道

会の目的達成の為、精進して参ります。ご協力お願いします。

副会長



浅井賢文

山田会長を中心に本会の活動が有意義なものとなるよう精一杯取り組んでいきたいと思ひます。

副会長



石橋龍哉

山田会長のもと青年僧としての役割を考えながら活動していきたいと思ひます。

中部理事



岩上覚真

「至誠通天」

東部理事



大嶽高俊

青年会員の代表として真摯に考え取り組んでいきたいと思ひます。

東部理事



磯田英之

任を全うできるように頑張ります。

監事



鈴木俊具

管内の御寺院様方等多くの方々に御支援を頂いている事を忘れず、積極的に活動して参ります。

事務局長



篠田道秀

山田会長の元、事務局一丸となり任に当たります。皆様のご協力をお願い申し上げます。

西部理事



杉山隆元

より良い青年会活動になるよう、頑張ります。

西部理事



古市太郎

前期の反省を活かし、皆さんの意見、自分の意見を積極的に伝えていきます。

中部理事



小川善広

わからない事ばかりですが一生懸命努めさせていただきます。宜しくお願いいたします。

書記



松本好寛

この度書記の任をいただいた松本好寛と申します。精一杯がんばりますので宜しくお願いします。

書記



関隆博

青年会事務局の一員として、青年会活動を頑張りたいです。

庶務



今枝真一

勉強させて頂きながら努めて参りたいと思ひます。宜しくお願いいたします。

会計



杉山大禅

「無始無終 円同太虚」

委員会 の活動

教化研修委員会



委員長
温湯 康二

この度教化研修委員長の任を仰せ
つかりました温湯康二でございます。
宜しくお願い申し上げます。

さて、教化研修委員会の活動指針
目標は、現代社会における人権・戦
争・宗教問題、また個人と社会との
関係等について宗教者としての理解
を深めるということです。

青年僧侶の皆様もそれぞれ理解さ
れておられると思いますが、社会変
化の速さ、情報化社会の広がりによ
り、先の諸問題の捉え方が多面的に
なつて来ていると思います。故に、
研修を通じ知的経験を増やし更なる
理解を深め、多面的な対応が出来る
ようになるための研修を行いたいと
考えております。二年間、皆様のご
協力を心からお願い致します。

ボランティア委員会



委員長
吉岡 博瑞

この度、ボランティア委員長とい
う大役を頂戴し、任期中、務める大
事となりました。ボランティアに関
してはもちろんの事、勉強について
も浅学菲才の私に務まるのか、自分
自身まったく未知数な所です。しか
し配役を頂いた以上、受けた責任を
全うしたく思います。

一人では出来ない事も、会員一同
「大衆一如」の精神で、一滴の水も
よく石を穿つが如く、会員のご協力
によりボランティア活動を成し遂げ
る事が出来ると思えます。
今こそ、私達の若い力を世に現し、
高い志を持って社会に貢献していき
ましょう。

広報委員会



委員長
平尾 直毅

広報委員会では、ウェブサイトを(青
年会ホームページ)・広報誌「緩歩」
(本誌)の制作を引き続きおこなっ
ていきます。

ウェブサイトは、一般の若者の目
に触れる機会が多い媒体であるので、
布教活動の一環となるようなサイト
作りを目指していきたいと思ってい
ます。

「緩歩」については、多くの方々
に青年会をより身近に感じて頂き、
青年会に対してさらなるご理解、ご
協力が得られるような紙面作りをし
ていきたいと考えています。そのた
めには青年会員の皆様からの寄稿や
写真など、ご協力が必要となつてき
ます。委員会の枠を越えてご協力を
お願い致します。

卒会者紹介

- 十教区 栄昌寺 村松幹雄 師
- 八教区 多福寺 梶川正則 師
- 十三教区 泰善寺 加藤俊量 師
- 六教区 庚申寺 桑原至人 師
- 十教区 高山寺 出井成生 師
- 十六教区 宗清寺 大嶽素宏 師
- 十二教区 高福寺 戸田孝志 師
- 五教区 宗徳院 松永寛道 師
- 三教区 洞福寺 香村一孝 師

長い間お疲れ様でした。これから
もご指導よろしくお願い申し上げます。

入会者紹介

- 三教区 天徳院 阿部孝悦 師
- 四教区 吉祥寺 青木隆徳 師
- 十三教区 興源寺 青木秀晃 師

よろしくお願い致します。
これからの活躍を期待します。

賛助御礼

(平成二十年度)

- ・ 2 | 45 常安寺様
- ・ 2 | 50 盤龍寺様
- ・ 3 | 67 宝寿院様
- ・ 6 | 153 興雲寺様
- ・ 6 | 180 秀源寺様
- ・ 7 | 188 保寿寺様
- ・ 7 | 199 傳心寺様
- ・ 7 | 211 松岳寺様
- ・ 8 | 394 萬松院様
- ・ 10 | 460 宗乗寺様
- ・ 10 | 473 新福寺様
- ・ 11 | 495 普門院様
- ・ 11 | 502 瑞雲寺様
- ・ 12 | 528 盤石寺様
- ・ 13 | 552 貞善院様
- ・ 13 | 556 信香院様
- ・ 13 | 562 興源寺様
- ・ 13 | 573 福昌院様
- ・ 13 | 579 江月院様
- ・ 14 | 30 福泉寺様
- ・ 15 | 95 久應院様
- ・ 15 | 99 増福寺様
- ・ 2 | 48 正信院様
- ・ 3 | 61 長光寺様
- ・ 4 | 109 玉泉寺様
- ・ 6 | 160 大藏寺様
- ・ 東京 桐ヶ谷寺様
- ・ 7 | 198 養雲寺様
- ・ 7 | 203 法藏院様
- ・ 8 | 390 梅林院様
- ・ 10 | 459 洞雲寺様
- ・ 10 | 467 光明寺様
- ・ 11 | 494 長徳寺様
- ・ 11 | 501 養徳寺様
- ・ 11 | 510 龍雲寺様
- ・ 12 | 538 孤雲院様
- ・ 13 | 553 大永寺様
- ・ 13 | 561 昌泉院様
- ・ 13 | 572 洞福寺様
- ・ 13 | 578 林泉寺様
- ・ 14 | 19 光用院様
- ・ 15 | 93 鳳林寺様
- ・ 15 | 97 法幢寺様
- ・ 15 | 100 東光寺様

計281,000円

(平成二十一年三月七日現在)

青年会の活動費へのご支援

ありがとうございます。

青年会一同

前会長挨拶



第8期会長 高橋 俊行

曹洞宗静岡県第一宗務所青年会第八期会長を拝命して、歳月人を待たず(陶淵明)、あつという間に任期満了を迎えました。その間、宗務所管内御寺院様、会員諸兄には、ご法愛、ご協力を賜り、また、昨年度より管内御寺院様へ賛助をお願いしましたところ、多くのご賛同を頂き、衷心より御礼申し上げます。

青年会の十年・二十年先への第一歩を信念として事業展開をしていく中で、勉強不足や注意を怠った点には多くの叱責を受け賜りましたが、信頼関係があつた上でのコミュニケーションだと受け止めさせていただきました。いい意味で凶太くなったような気がします。

ある御寺院様から「青年会で頑張っているね。これからも見守っていくから頑張れ」と声を掛けて頂きました。なんとも言えぬ感激に包まれ、励まされた思いは決して忘れることはありません。

俳優の仲代達矢さんが「どれだけの目がその人に向けられているかが大切なのではないか。逆に言えば、自分に向けられている目にどう気付き、それにどう応えていけるかだ」と言っています。見られる側にとって、見られることで人に励まされ、守られ、鍛えられていく。見る側にとっても、見ることで人を励まし、守り、鍛える。そんな相互関係の中で志気は高められていくのかな、と思います。

最後に、任期中多くの方に支えられたことに重ねて感謝御礼申し上げます。また会の発展を切に願い、退任のご挨拶とさせていただきます。

点字經典の作成

企画委員会では、平成二十年度の教化事業として「点字經典の作成」について検討を重ねてまいりました。健常者だけでなく、視覚障害者の方々にも布教の一環になればという思いから、点字經典には般若心経・大悲心陀羅尼・修証義等、曹洞宗で日常使われるお経を収録し、社会福祉法人・日本点字図書館(東京都新宿区高田馬場一―二三―四)のご協力を得て、専門家の意見をいただきながら

ら検討、確認をし、ようやく発行の次第となりました。点字經典の普及へのご理解とご協力をお願い申し上げます。(荒見法孝)

編集後記

第二回目の梅花観音霊場紹介。一〇八ヶ寺紹介までまだまだ先は長いですね。(翠 智道)

編集に参加したお陰で色々なスキルがアップしました。(寺澤孝道) 自分自身の知識と文章力の無さを痛感しました。これから勉強します。(澤田俊憲)

引き続き編集を担当させて頂き感謝しております。(古川義典) この経験に依り自坊の寺報を発行する事が出来ました。(高橋英明)

力及ばずながらも編集作業に参加させて頂きました。(久保寺隆幸) 委員会運営へのご支援ありがとうございました。(大村則道)

発行 曹洞宗 静岡県第一宗務所青年会
事務局 富士市岩淵328 水泉寺内
発行責任者 山田哲哉
編集 青年会広報委員会